

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1 不正アクセスによる情報の改ざんや流出等があった回数	回	0	R2	0				0
2 施設の統廃合・複合化を決定した公共施設数(累計)	施設	2	R2	2				6
3								
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目	重要度	満足度	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 行政情報を市民が入手しやすいしくみが整っている	重要度	▲ 0.12	0.95			— 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
	満足度					
2	重要度					
	満足度					
3	重要度					
	満足度					
4	重要度					
	満足度					

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 行政情報の適切な管理	公文書の取扱いの適正な運用を図るとともに、電子決裁を含む公文書の電子化に向けた制度設計を進めた。令和5年度において電子決裁システムの導入及び円滑な運用を行う。
② 公有財産の効率的・効果的な活用	旧図書館等の公共施設跡地の有効利用や活用が見込めない公有財産の売却や貸付について、公共施設跡地等活用検討委員会において全庁的に検討を行う。
③ 新庁舎整備の推進	ポストコロナ時代にふさわしい庁舎の在り方について検討を行い、新庁舎整備基本計画(骨子案)を取りまとめた。今後、早期に基本計画を策定し、建設候補地を選定する。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

行政情報の適切な管理については、情報システムのクラウド運用により事故なくデータを適切に管理できた。公文書管理については、保存の最適化を図るため、電子決裁など公文書電子化の制度設計を進めた。また、個人情報の保護については、個人情報保護法の改正に伴う市条例の整備を行い、適切な管理に努めるとともに、公文書の情報公開については、市民に開かれた市政の実現を図るため情報公開制度の適切な運用に努めた。公有財産の効率的・効果的な活用については、城東地区コミュニティセンターを市民協働センター敷地内に併設し、複合化を図るため工事実施設計を行うとともに、小中学校施設の長寿命化計画策定に着手した。また、公共施設の適切な維持管理を図るため、旧図書館や旧市営住宅等の跡地の有効活用や活用が見込めない公有財産の売却・貸付について、対象とをなる財産の特定と諸条件の洗い出しを行った。今後、具体的な活用方法を検討するため、公共施設跡地等活用検討委員会を立ち上げた。新庁舎整備の推進については、有識者や市民等で組織する新庁舎整備基本計画等検討委員会や庁内の検討委員会での意見を踏まえ、整備基本計画の策定作業を進めた。外部環境変化を踏まえ基本構想で示した新庁舎整備の基本理念及び基本方針を見直し、基本計画骨子案を取りまとめたが、年度内の基本計画策定には至らなかった。また、建設基金については、計画どおり5千万円を積み立て、積立額は13億5千万円となった。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

行政情報の適切な管理については、引き続き、情報システムの安定稼働とデータ管理の徹底を行っていく。また、公文書管理については、公文書電子化を進めるため、電子決裁を導入する。公有財産の効率的・効果的な活用については、旧図書館の活用方法について公共施設跡地等活用検討委員会での検討を進め、早期に活用方法を決定するとともに、活用が見込めない財産については、売却・貸付のための諸条件の整理を行い、歳入確保に努める。新庁舎整備の推進については、新庁舎整備基本計画の早期策定を行うとともに、基本計画で示す建設候補地の中から建設予定地を決定し、その予定地の条件を踏まえ施設配置やフロア構成、事業費の算定など、より具体的な整備方針等の検討を進める。また、庁舎建設基金については、建設予定地の決定後、積立目標額の見直しを行う。